



大会長講演

いわゆる「2023年問題」に対して全国の医学部は臨床実習期間などを含めたカリキュラム改革が求められ、日本医学教育評価機構(JACME)が中心となり現在、医学教育の国際認証の受審が進められています。確かに政治、経済、教育などあらゆる分野でグローバル化の文字が溢れています。医療もまた質的保障に根差したグローバルスタンダードばかりを頼みにしては、医療の本質であるところの「人を診る」ことが等閑にならないかという懸念があります。そのため

にも医の本質に立ち返り、また大学の建学の精神に基づき「大学の独自性」が何なのかを見つめなおす時期に来ていると言えます。本学会が中心となり医の本質に根差した医学教育改革が求められています。そこで今回、「大学の独自性」に注目し、「大阪医科大学の建学の精神と医療人の育成について」と題した大会長講演を行いました。



Gordon 先生の招請講演

最初に高山右近に因む史跡が多い高槻市に、本学が1927年に日本高等医学専門学校として創立したことを紹介しました。続いて本学の歴史、創立の経緯や建学の精神「至誠仁術」について説明し、建学の精神に込められた「医学教育」、「医学研究」、「実地の医療に活かす」や「国際化」に則り、学長として定めた五つの教学改革方針 (Innovation, Translational Research, Social Contribution, Globalization, Open Mind) に基づいた教学面での改革を紹介しました。

特に「医学教育」として高大接続や医学教育分野別認証評価に対応した新カリキュラム改革、「医学研究」として本学の産官学連携事業の取り組み、「実地の医療に活かす」の例として関西B NCT医療センター(仮称)、東日本大地震災での救援活動、兵庫県・高知県医師派遣事業や中山国際医学医療交流センターの活動について報告しました。第48回日本医学教育学会大会のご報告するとともに、ご協力いただいた教職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

(第48回日本医学教育学会大会
大会長 大槻勝紀)

過去最大の参加者、「おもてなしの心」で盛会に



第48回日本医学教育学会大会を終えて

「教職協働」教職員と共に大会を終えて

7月29日〜30日に第48回日本医学教育学会大会が本学本部キャンパス、北キャンパス及び高槻現代劇場において開催され盛会のうちに終えることができました。ここ4〜5年、本大会はコンベンションホールなどで開催されてきました。しかし医学教育を考える上で、主催校での開催の意義は大きいと考え本学で開催することにしました。お陰様で過去最多の1100名を超える参加者にご来場いただきました。海外からも著名な医学教育者を多数お招きし、招請講演、基調講演、特別講演、シンポジウム、一般講演、ポスターセッションや学生セッションなど含めて過去最多の演題数をいただきました。また104歳の聖路加国際大学・日野原重明名誉理事長(10月で105歳)より名誉会長講演「再びオスラー博士に学ぶ」を賜り、参加者一同、医学教育の原点を考える良い機会になりました。開会式の挨拶で、大会長として本大会を主宰するにあたり「おもてなしの心」でお迎えいたしますとお話ししましたが、会員の皆様からはスタッフの接遇の素晴らしさに感心され、お礼の言葉を数多くいただきました。このことは、河田了実行委員長をはじめとする医学教育センター、学務部、総務部

また施設の利用につきご配慮いただきました本学法人並びにご支援賜りました仁泉会に深く感謝申し上げます。今回の本学会の基調テーマは「医学教育のグローバルスタンダードにおける大学の独自性」です。2010年に米国ECFMGは、グローバルスタンダードに基づく医学教育分野別認証評価を受審していない外国の医学部卒業生に対して、米国で医業を行うために必要なUSLMEの成績証明書を発行しない、と突如として通告しました。などご協力いただきました教職員の皆様方の「教職協働」の成果によるものと考えます。また施設の利用につきご配慮いただきました本学法人並びにご支援賜りました仁泉会に深く感謝申し上げます。今回の本学会の基調テーマは「医学教育のグローバルスタンダードにおける大学の独自性」です。2010年に米国ECFMGは、グローバルスタンダードに基づく医学教育分野別認証評価を受審していない外国の医学部卒業生に対して、米国で医業を行うために必要なUSLMEの成績証明書を発行しない、と突如として通告しました。



日野原先生の名譽会長講演